

6月30日午前5時半、モスクワの自宅から通りをはさんで向かいにある仕事場に向かう途中、3人組のロシア人の若者に襲われた。殴るけるの暴行の末に、鉄製の郵便受けで頭部を殴打され倒れた。アジア系住民の排斥を訴える民族主義者の犯行とみられた。7日間入院した後、こんな趣旨のメッセージを自らのメルマガに書いた。

「モスクワ市は中央アジアなどから『3K労働者』を経済的な視点で受け入れたが、」



露から日本へ問題提起

一部のロシア人は『移民が仕事を奪っている』と主張し、移民襲撃事件が増え、治安が悪化した。日本は3K移民を受け入れるな、と言いたい。日本では、参院選を前に民主党が掲げる移民受け入れや外国人参政権問題が話題になっており、ロシアからの問題提起は論議に一石を投じた。当初「転んでも、ただでは起きな

メルマガで歯切れのいい国際論を展開

1999年から発行する無料メルマガ「ロシア政治経済ジャーナル」は複雑な国際問題をわかりやすく解説し、歯切れのいい結論を打ち出すことで人気を博している。例えば、米国の一極支配の終わりをいちはやく見通し、日本が中国の「天領」になってしまふことに警告を鳴らした。当初

500人程度だった登録購読者は約2万4000人にまで増え、「あと2年で10万人を獲得したい」が目標だ。ソ連末期、ゴルバチョフ共産党書記長(当時)にあこがれ19歳でモスクワに渡って20年。将来の外交官が学ぶ露外務省付属モスクワ国際関係大学(MGIMO)に在学中、ロシアでは珍しい仏教地域、カラムイク共和国のイリュムジノフ大統領が行った講演に感銘を受け、卒業後、つてを頼

つて大統領顧問となり、日本からの投資誘致に奔走した。2000年代前半、有料雑誌を発行したが、軌道に乗らず、設立した投資コンサルタント会社では苦手な顧客の接待を迫られるなど苦労した。転機をもたらしたのは「アフリエイト」(成果型広告報酬)というネット広告だった。メルマガに載せた企業などからの広告がクリックされると報酬が得られる仕組みだ。「試しにやってみたら1日3万円ぐらい収入があり、」

「え、こんなにもうかるの?」と驚いた。相前後して本を出版する話を持ち込まれ、著述業に専念することを決めた。次は、ソ連崩壊から経済危機まで生き抜いた経験をいかし、「サバイバル本」を出す構想を温めている。(モスクワ 貞広貴志、写真も)

フィンランド日本協会75周年



フィンランドの初代理任 公使クスターフ・ジョン・ラムステッド氏(フィンランド日本協会提供)

フィンランド日本協会(本部ヘルシンキ)が創立75周年を迎えるのを記念し、ヘルシンキ市庁舎内で23日、和太鼓の演奏やフィンランドの風景を愛した画家・東山魁夷に関するセミナーなどが行われる。同協会では、「これを一つの節目に、今後とも両国の相互理解を深めるため、活動を強化したい」と意気込んでいる。

日本との友好協会を持つ国は多いが、フィンランド日本協会のビルツコ山下会長によると、同協会は各国の対日友好協会の中で3番目に古い歴史を誇り、現会員数は1000人を超えている。漫画家の「若者文化」から、歌舞伎を含む「伝統文化」まで、フィンランドの日本への関心は高く、新会員も増えているという。

23日の記念式典は、ムーミンの舞台音楽の作曲者、フィンランドの初代理任 公使クスターフ・ジョン・ラムステッド氏(フィンランド日本協会提供)の講演から始まった。午後6時からは「音楽の夕べ」と題し、フィンランドの伝統楽器カントレと日本の琴の合奏、和太鼓の演奏がある。カンテ

家として愛知万博(2005年)でも活躍したヘイック・マンパー氏が東山魁夷の作品を音楽と絵で紹介。続いて、言語学者で初代フィンランド代理公使として1919年に東京に赴任したクスターフ・ジョン・ラムステッド氏の生涯に関するセミナーがある。同氏は日本語も話し、日本で10年間、外交官として活躍、帰国後に日フィンランド協会の創設にも尽力した。

石井清展、ヘルシンキ市庁舎内での記念イベントとも無料。記念イベントは市庁舎インフォメーション・デスクで事前に整理券を配布する。問い合わせは同協会(☎+358・50・406・2744)へ。

見もの

文化交流で友好促進

「改革」反対を唱えていたルーマニア情勢が、急変し始めた。1989年12月17日の深夜、東京から電話が来た。ルーマニアで情勢急変のウワサがあるということだった。翌日にウィーンへ出た。ウィーンからはルーマニアへの直行便が多い。当時のギリシャと違って、外貨持ち出しもウィーンからは簡単だった。

ルーマニア空路で入れず

いつまで現地にいるか分かんない東欧諸国への出張に、はドルを外貨の現金を、ルーマニアのティミショナリ「持っていないと不便が起る。それも1日、5日の少額紙幣ほど都合がいい。銀行で少額のドル札を束ねてもらった。日本人には通常、ルーマニア大使館で簡単に入国ビザを出して貰った。しかし、急を告げるルーマニアにビザを申請している時間はない。その日に見たオーストリア

アテネ時代 18 (1989年～) 国営テレビは、ハンガリー、ユーゴスラビアとの国境に近しいルーマニアのティミショナリで大規模なデモが起き、軍隊が出て市民に無数の死者が起っていると伝えていた。ルーマニア政府批判をしたというマジール人(ハンガリー人)牧師の「滞在取り消し」を巡る抗議デモが「チャウシエスク独裁打倒」に発展した。ウィーン空路で係員がわたしのパスポートをチェックし

た際、搭乗を断られるかと思ったが、問題なく搭乗券を渡してくれた。乗客はほとんどいなかった。が、機内に入ってしまったら、乗務員がやって来た。「事前の入国ビザのない方は入国できません。今、連絡が来たところです。降りて頂きたい。」 こうして機外に追い出された客は他に2人いた。いずれも肩からワイプアロらしいPCを下げていた。どこかの国の記者だろう。ルーマニアはその日のうちに空港も閉鎖した。

ヨーロッパ 気温・天気 (12日・AP)	アムステルダム 曇 18/8	アテネ 晴 30/21	ベオグラード 雨 18/11	ブリュッセル 晴 18/8	ブダペスト 雨 17/11	コペンハーゲン 晴 19/11	フランクフルト 曇 18/7	ジュネーブ 晴 20/7	ヘルシンキ 雨 17/6
	リスボン 晴 28/19	マドリード 雨 28/18	ニース 晴 24/17	オスロ 曇 15/6	プラハ 雨 15/6	ストックホルム 曇 16/4	ウィーン 曇 18/11	ワルシャワ 雨 12/11	チューリヒ 晴 19/5